

会員通信 No.266

岩手県俳人協会事務局
〒020-0001岩手県盛岡市上米内字赤坂1-60 二階堂光江方
電話 019-661-4816 振替 02310-1-13697

第45回総会・新年俳句会は1月23日(土) 一部内容を変えて開催

…申込み・投句は12月10日(木)厳守…

新型コロナウイルス禍の終息が見えない状況ではありますが、令和3年度岩手県俳人協会第45回総会・新年俳句会を下記のように開催いたします。今回は講演会・懇親会は行わず、新年俳句会で参加者互選(事前投句)を行います。さらに、会場変更、午後からの開催となっておりますのでご注意ください。

1. 日時 令和3年1月23日(土) 12:30~受付 13:00開会 16:00閉会予定
2. 会場 ホテルメトロポリタン盛岡ニューウィング4階 「メトロポリタンホール東南」の間
3. 参加費 1,000円(当日集金)*さらに、岩手県俳人協会年会費6,000円の納金も受付けます。
4. 講師 吉田千嘉子先生 公益社団法人俳人協会幹事 「たかんな」主宰
5. 日程

○第1部	総会	13:00~14:00
○第2部	新年俳句会 参加者互選(事前投句)	14:00~15:00
	選者入選句発表・講評・表彰 (選者7名)	15:00~16:00
6. 投句 事前投句 冬季雑詠2句(歳末・新年句も可)*自作・未発表のこと*当日投句はありません。
7. 参加申込・投句締切 12月10日(木) *申込書と投句用紙は切り離さず送付下さい。
8. 参加申込・投句の送付先(FAXも可)
〒020-0001 盛岡市上米内字赤坂1-60 二階堂光江宛 Tel・FAX 019-661-4816
9. 参加取消の場合 必ずご連絡下さい。

ただし、参加費1,000円は投句料となりますので、欠席の場合はどなたかにお問い合わせするか、後日送金いただくなど、納金をよろしく願います。

※お願い・・・申込・投句は期限厳守でお願いします。 ○句稿は楷書ではっきりとお書き下さい。

○二重投句等の問題があった場合は取消しとさせていただきますのでご了承願います。

※作品集追加希望の方に、総会当日販売いたします。(1冊1,000円)

※受付時に、岩手県俳人協会年会費6,000円の納金のご協力をお願いいたします。現金納付いただくと、振込手数料等の軽減となります。ご協力よろしく願い致します。

※コロナ感染防止のため、参加の皆様にはマスク着用、手の消毒、検温のご協力をよろしく願い致します。

また、参加当日、発熱等があった場合は、電話連絡のうえご出席を見合わせるようお願い申し上げます。

◇講師プロフィール(角川俳句年鑑より)

吉田千嘉子(よしだちかこ)先生(「たかんな」主宰)

・公益社団法人俳人協会幹事 ・青森県八戸市在住 ・昭和27年北海道生れ

・著書 『杵灘子』『一滴の』 *吉田千嘉子先生にはご選と講評を頂きます。

◇句集出版について・・・お知らせ下さい。

総会に於いて、今年度句集・評論集を出版された方々へ本協会より祝意を表します。句集出版された方がありましたら事務局までお知らせ下さい。現在まで鈴木和子氏、佐々木田三男氏からご連絡を頂いております。

深悼 小原啄葉顧問

岩手県俳人協会顧問の小原啄葉先生が9月23日、老衰のため逝去された。享年99。

先生は大正10年、岩手県矢巾町生まれ。昭和26年、30歳のときに「夏草」に入会し山口青邨に師事。昭和52年、有志と岩手県俳人協会を設立。昭和53年には57歳で「樹氷」を創刊主宰し、岩手俳壇のリーダーとして活躍されてきた。個人としては平成9年に俳人協会賞、平成16年に俳句四季大賞、平成19年に詩歌文学館賞を受賞。平成24年に上梓した第9句集『黒い浪』は、〈地鳴り海鳴り春の黒浪猛り来る〉〈春泥のわらべのかたち搔き抱く〉など、東日本大震災をテーマとした句集として話題を呼んだ。

〈花桐や雲を重ねて南部領〉〈海鼠切りもとの形に寄せてある〉〈もう少し生きて海鼠と付き合ふか〉〈雪だけを見て雪を搔く雪明り〉〈したたかに転んで雪を罵れる〉など、風土性や諧謔味に富んだ句を持ち味としており、「海鼠の啄葉」とも呼ばれた。

また、〈悴みてビンタ賜はる構へとる〉など戦場体験を詠み続けた希有な存在でもあった。

第10句集の『無辜の民』の一句〈戦詠み津波うたひて扇置く〉。先生の俳句に情熱を注ぎ続けてこられた生き様は、今後とも私たちの範とすべきところである。

心よりご冥福をお祈りいたします。

(岩手県俳人協会会長 白濱一羊)

◇令和2年度第42回鍛錬会は紙上句会として開催・・・鍛錬会賞は八重樫美佳氏

新型コロナウイルス対策のため、今年度の鍛錬会は吟行句会を取り止め、紙上句会に切り替えての開催となりました。85名・255句の応募があり、その中から八重樫美佳氏の「賢治清水銀の柄杓を溢れ出す」が鍛錬会賞に選ばれました。(入選作品は3ページ・4ページに掲載)

◇第73回岩手芸術祭文芸祭俳句入選作品 (俳句大会は10月17日 盛岡市勤労福祉会館にて開催)

<p>進むほど風若返る松手入 伊藤文明</p> <p>○奨励賞</p> <p>助つ人は分校仲間蕎麦を刈る 和田タケ</p> <p>○優秀賞</p> <p>稲架くぐる遊びに空の広さかな 五日市明子</p> <p>○文芸祭賞</p> <p>文芸祭俳句大会入選作品</p>	<p>稲の花 高橋和枝</p> <p>立秋の風は木綿の肌ざはり 立秋の花七曜過ぎる速さかな</p> <p>○奨励賞</p> <p>奥の正法寺 兼平玲子</p> <p>繻門のきざはし険しつくつくし 大いなる茅葺屋根や鰯雲</p> <p>星月夜 後藤冴子</p> <p>最果ての海鳴りを聞き明易し 潮風の髪にこもれる昼ちちる</p> <p>○優秀賞</p> <p>達谷忌 岩渕洋子</p> <p>馥郁と梅東風渡る摩崖仏 菜の花の蝶と化したる窟かな</p> <p>「県民文芸作品集」入選作品 *五句のうち二句を紹介</p>
---	--

◇第31回公益社団法人俳人協会東北俳句大会青森大会入選作品 (事前投句のみ実施)

<p>たんぼほの花に茎なき竜飛崎 馬場吉彦</p> <p>○草野力丸先生特選</p> <p>帰還せぬ軍馬の牧場蕨折る 佐々木一夫</p> <p>○木附沢麦青先生特選</p> <p>古民家のシェフの出迎へ花こぶし 安達広子</p> <p>○伊藤青砂先生特選</p> <p>台風圏まづは五合の飯を炊く 篠村恵美子</p> <p>死者生者秋の声聞く恐山 川原 栄</p> <p>○古市文子先生特選</p> <p>勿忘草風の電話は話し中 土川喜代子</p> <p>○黒坂重政先生特選</p> <p>立春大吉鼠小僧の墓は此処 菅原けんいち</p> <p>○馬場吉彦先生特選</p> <p>どの部屋へ行つても一人涅槃西風 佐々木昌子</p>	<p>○大会賞</p> <p>水源はあの樵の岳田水張る 佐々木一夫</p> <p>修司忌の紫紺の空や花りんご 梅森サタ</p> <p>猫の仔の水呑む足が皿の中 杉田春雄</p> <p>○白濱一羊先生特選</p> <p>○馬場吉彦先生特選</p> <p>立春大吉鼠小僧の墓は此処 菅原けんいち</p> <p>○黒坂重政先生特選</p> <p>勿忘草風の電話は話し中 土川喜代子</p> <p>○古市文子先生特選</p> <p>死者生者秋の声聞く恐山 川原 栄</p> <p>○伊藤青砂先生特選</p> <p>台風圏まづは五合の飯を炊く 篠村恵美子</p> <p>古民家のシェフの出迎へ花こぶし 安達広子</p> <p>○木附沢麦青先生特選</p> <p>帰還せぬ軍馬の牧場蕨折る 佐々木一夫</p> <p>○草野力丸先生特選</p> <p>たんぼほの花に茎なき竜飛崎 馬場吉彦</p>	<p>お悔やみ申し上げます</p> <p>○戸塚時不知様 7月29日ご逝去 (盛岡市 樹氷・天為 ・鷹・草笛)</p> <p>○村上美智子様 9月15日ご逝去 (盛岡市 樹氷・天為)</p> <p>○小原 啄葉様 9月23日ご逝去 (盛岡市 樹氷名誉主宰)</p>
--	---	--

令和二年度岩手県俳人協会
第四十二回鍛錬会入選作品

賢治清水銀の柄杓を溢れ出す

八重樫美佳

◇白濱一羊先生特選(順に地・人賞)

三尺寝まだ覚めやらぬ指の先
派出所に不在の知らせ立葵

安田汀四郎
上野 節子

秀逸

水面といふ空つつく金魚かな
川底の流れ重たき跣足かな
草刈女魔女の道具のやうなもの
喧嘩して一人の湯船浮いて来い
水切も兄にかなはず夏の果

工藤 幸子
八重樫美佳
津志田 武
小林 史枝
安達 広子

佳作

稲雀天に指揮棒あるらしき
初蟬に止まつてしまふ万歩計
麦秋やホーム短かき山の駅
十葉の花の香古き傷のごと
少年の草野球場梅雨茸
妹の小さき嘘やソーダ水
夫の忌やこんなに小さき缶ビール
モナリザの声やもしれず昼寝寛
月見草引込み線に一輛車
自粛していよいよ白き髪洗ふ

佐々木典子
中嶋 広江
沼宮内凌子
工藤 幸子
森 奈賀子
中村セイ子
及川 英子
安達 広子
和田 タケ
佐藤 嘉子

◇小畑柚流先生特選(順に天・地・人賞)

青水無月地蔵の笑まふ窟かな
初蟬に止まつてしまふ万歩計
夏草や墓守る人の跡絶えたる

岩渕 洋子
中嶋 広江
山火 律子

秀逸

夏浅き野道は風の抜ける道
涼しさや水の流れに水の私語
奥社へと修験者の道蟬しぐれ
混沌のこの世であれど浮いてこい
百日紅空の青さを競ひけり

吉田 布美
吉田 布美
上野 節子
兼平 玲子
深澤 範子

佳作

しあはせにもらひ泣きする合歡の花
田草取る生徒ぬき足忍び足
切支丹悲話の首塚梅雨の月
馬鈴薯の花や開墾七十年
夏神楽鎮守の杜に風生まる
田水張り写すや空も神さまも
紫陽花の色をひき寄せ雨上がる
風が好き鳥語大好き夏の庭
みんみの声押し寄せる午後三時

小山 尚宏
菅野 好子
阿部ゆき子
木関 借楽
村井 康典
佐々木昌子
及川茂登子
犬股百合子
佐々木八千代

◇小林輝子先生特選(順に天・地・人賞)

名を呼べば黒牛夏野掴み立つ
風鈴を軒よりはづす速夜かな
郭公の挨拶が先吟行会

梅森 サタ
和田 タケ
野村 亮子

秀逸

千年の螺鈿や梅雨の光堂
だるま貯金家族総意の水見舞
馬鈴薯の花や開墾七十年
羊蹄の花立ち並ぶたんぼ道

鈴木道紫葉
伊藤 順子
木関 借楽
島山えつ子

佳作

夏草や餓鬼大将のみた山河
馬小屋に十葉干して馬飼はず
短夜の夢の続きを見て卒寿
辣韭を洗ひ終へたる夜のしじま
雲の峰げんこつ上げしままの父
泉湧く耳を澄ませば楽おこり
海流のぶつかる匂ひやませくる
ひなげしの緋のさざなみの一反歩
奥社へと修験者の道蟬しぐれ
夏枯草の花穂を辿る里の山

大石 文雄
馬場 吉彦
菅野 好子
橘 千代子
古川 和子
岡部 玄治
津志田 武
菊池 郁子
上野 節子
相馬 定子

◇馬場吉彦先生特選(順に天・地・人賞)

風鈴を軒よりはづす速夜かな
海流のぶつかる匂ひやませくる
七歳のままの妹の夏帽子

和田 タケ
津志田 武
小山 尚宏

秀逸

ゆく夏やみちのく潮風トレイル
囀あつかつてます生花店
十葉の花の香古き傷のごと

豊島喜美子
佐々木一夫
工藤 幸子

(4ページに続く)

名人は石を釣るてふ鮎の川
逆縁の話聞きつつ氷菓子

佳作

阿部野の女
岩渕 洋子

海鳥の並ぶ欄干青岬
麦秋やホーム短かき山の駅
月涼し一時ばかり家出して

豊島喜美子
沼宮内凌子
篠村恵美子

白鷺や汚れし声の落し物
卯月浪寄せて番屋のありし浜
天保の飢饉の石碑草茂る

鉄本 正人
及川 永心
伊藤 順子

転入の青葉区役所夏燕

小山 尚宏

遠青嶺窓開け放ちコーラス部

森 奈賀子

だるま貯金家族総意の水見舞

伊藤 順子

下北に窓開け放つ烏賊釣火

川原 栄

賢治清水銀の柄杓を溢れ出す

八重樫美佳

まだ火照る干し物畳む大暑かな

沼宮内凌子

梅雨晴間測量隊は大学生

阿部ゆき子

派出所に不在の知らせ立葵

瀧澤マツノ

及川永心先生特選(順に天・地・人賞)

沼宮内凌子

遠青嶺窓開け放ちコーラス部

森 奈賀子

古代蓮葉に一つづつ玉を抱き

上野 節子

麦秋やホーム短き山の駅

中村セイ子

馬鈴薯の花や開墾七十年

木関 偕楽

相馬 定子

妹の小さき嘘やソーダ水

月見草引込み線に一輛車

和田 タケ

万斛の光蓄ふ雲の峰

川村 健

及川茂登子先生特選(順に天・地・人賞)

菅野 啓子

切支丹悲話の首塚梅雨の月

阿部ゆき子

蚕豆や四角四面の祖父のこと

佐々木昌子

正確に読む木の名前夏休

安達 広子

馬鈴薯の花や開墾七十年

木関 偕楽

奥羽嶺の風透きとほり遠郭公

松田 昭子

水切も兄にかなはず夏の果

佐藤 嘉子

同じ子を好きになりし日青葡萄

村井 康典

炎天の日陰門外小路かな

兼平 玲子

自粛していよいよ白き髪洗ふ

逆縁の話聞きつつ氷菓子

牽牛花原敬墓所へ道標

岩渕 洋子

だるま貯金家族総意の水見舞

伊藤 順子

「ありがとう」ふえゆく齢もじずり草

古川 和子

軍歴を刻む兵の碑蟻惑ふ

大石 文雄

蒲の穂を持ちて牛追ふ牛ことば

佐々木一夫

雲の峰げんこつ上げしままの父

村井 康典

蟬の殻乾けば風の棲みややく

岡部 玄治

泳ぎ終へプールの水の定まらず

瀧澤マツノ

海流のぶつかる匂ひやませくる

津志田 武

稲雀天に指揮棒あるらしき

津志田 武

涼しさや水の流れに水の私語

吉田 布美

初日より補習授業や夏休

大平 春子

夏の日や月光殿の鏡文字

佐々木典子

草矢射て疫病の憂さ晴らしけり

小畑 柚流

美しき螺旋階段ねじり花

斉藤 径子

天保の飢饉の石碑草茂る

大平 春子

オナライン授業の孤独青胡桃

阿部野の女

馬小屋に十葉干して馬飼はず

馬場 吉彦

老鶯や村に入植記念の日

円子 涼子

モナリザの声やもしれず昼寝覚

安達 広子

滝壺がほどの青空梅雨晴間

木関 偕楽

誰もぬぬ児童公園合歓の花

円子 涼子

正確に読む木の名前夏休

菅野 啓子

夫の忌やこんなに小さき缶ビール

島山えつ子

喧嘩して一人の湯船浮いて来い

山火 律子

稲雀天に指揮棒あるらしき

佐々木典子

ソーダ水本音は聴かずじまひなる

及川 英子

炎天や応援団の掠れ声

小林 史枝

稲雀天に指揮棒あるらしき

渡辺 紀子

夫の忌やこんなに小さき缶ビール

及川 英子

炎天や応援団の掠れ声

小林 史枝

稲雀天に指揮棒あるらしき

渡辺 紀子

夫の忌やこんなに小さき缶ビール

及川 英子

炎天や応援団の掠れ声

小林 史枝

稲雀天に指揮棒あるらしき

渡辺 紀子

夫の忌やこんなに小さき缶ビール

及川 英子

炎天や応援団の掠れ声

小林 史枝

稲雀天に指揮棒あるらしき

渡辺 紀子

夫の忌やこんなに小さき缶ビール

及川 英子

炎天や応援団の掠れ声

小林 史枝

稲雀天に指揮棒あるらしき

渡辺 紀子

夫の忌やこんなに小さき缶ビール

及川 英子

炎天や応援団の掠れ声

小林 史枝